

平成 20 年度琉球大学大学院法務研究科選抜試験問題（小論文）の問題と講評

【問題】

下記の文章を読んで、ホームレスによる空き缶回収を排斥しようとする行政の措置について、あなたの意見を述べなさい。ただし、予想される反対意見をふまえてこれを批判しつつ論じること。

（文章については、著作権の関係で、当 Web ページには掲載しておりません。）

【答案の講評】

「ホームレスによる空き缶回収を排斥しようとする行政の措置について意見を述べよ」というのが本問の課題である。これは、そのような行政措置を妥当と思うかどうか、そしてその理由は何かを聞いているのであり、したがって、ホームレスをいかにして救済すべきかとかホームレスを減らすにはどうしたらよいかを力説しても出題者の要求に答えていないことになる。この点、「私は行政の措置に賛成（反対）である」と筆を起したところまではよいが、次第に内容が「ホームレス対策論」になってゆく答案が多かったことは残念である。

問題となっている行政の措置に関しては、行政当局、ホームレスの人たち、リサイクル業者、住民等にそれぞれもっともな言い分があるであろうから、答案を書き出す前に、まずそれぞれの立場にとって措置がもたらすメリットやデメリットを正確に把握しなければならない。そして、どの立場を支持するにしても一方的・一面的な議論に陥ることなく、他の立場への理解と配慮が伺われるようなバランスのよい答案を作成するように心掛けるべきである。

このように言うことは、もちろん玉虫色の答案を期待することではない。行政措置への賛否が問われている以上、自分の態度を明確に、そして説得的に示さなければならないのは当然である。だが、採点してみると、書き手のメッセージが生き生きと伝わってくるものが少なかったように感じられた。理由のひとつとして挙げられるのは、「問題文によれば～である。たしかに～。だが～」式の画一的な小論文対策パターンで臨んだ答案が多かったことである。その結果、判で押したような答案になってしまい、新鮮味が失われた。さらに、そこで語られている内容も抽象的な一般論やマスコミで見聞きしたと思われる識者コメント的なものが多く、それらがよく吟味されないまま並べられた結果、表層的な感想文に陥り、主張に迫力を欠いてしまった。やはり自らの頭を絞って考えを巡らせたことが読む者にも伝わるような答案を目指して欲しい。この点で、なぜ

ホームレスが発生するのかとか、ワーキングプアと呼ばれる現代社会の世相にまでさりげなく斬り込んで、そのような洞察の上で行政措置の是非をバランスよく論じていた答案は評価が高かった。形ばかりの小論文対策よりも読書に時間を費やし、思索の訓練をしておく必要があるだろう。

琉球大学法科大学院